

事業実施主体等取組評価報告書(産地競争力の強化を目的とした推進事業)

内は地方農政局等において記入

(都道府県名: 大分県)

| 市町村名 (または地区名) | 事業実施主体名 | 政策目的 | 政策目標 | 取組名 | 計画策定時 | | 事業実施後(目標年度) | | 事業実施主体による評価 | 都道府県による評価 | 都道府県による評価結果の判断根拠、要因分析(必要に応じて記入) | 農政局による評価 | 成果目標の達成率 |
|------------------|---------------|----------|----------------------|-------------|--|---|---|---|-------------|-----------|---|----------|----------|
| | | | | | 成果目標 | 事業内容(計画) | 成果目標に対する成果実績 | 事業実績 | | | | | |
| 九重町 | 九重町 | 産地競争力の強化 | 果樹産地構造改革計画 | 果樹 | 果樹産地構造改革計画の策定 | ・協議会の開催 ・ブルーベリーつみ取りマニュアルの作成 ・栽培技術講習会 ・消費動向調査 | 果樹産地構造改革計画の策定(H18.3) | ・協議会の開催 2回 ・つみ取りマニュアル 3000部 ・栽培講習会 1回 ・消費動向調査(東京1回、福岡1回、鹿児島1回) | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 杵築市 | 中央柑橘園芸連(杵築地区) | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 果樹 | 果樹産地構造改革計画の策定 | ・委員会の開催 ・専門部会の開催 ・実証圃の設置 ・低コストマニュアルの作成 | 果樹産地構造改革計画の策定(H17.11) | ・委員会の開催 1回 ・専門部会の開催 2回 ・実証圃の設置 2ヶ所 ・低コストマニュアルの作成 550部 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 花き | ・県産花きに対するホームユース用での要望とりまとめ ・年間10a当たり収量5%増加 | 協議会の開催12回 調査の実施6回 実証・試験等の実施8ヶ所 技術の普及(研修会開催)7回 啓発活動(パンフ作成)600部 | ・県産花きに対するホームユース用での要望とりまとめ(6回) ・年間10a当たり収量5%増加(トルコキキョウ26千本/10a→34千本/10a スイートピー10千本/10a→11.2千本/10a) | 協議会の開催12回 調査の実施6回 実証・試験等の実施8ヶ所 技術の普及(研修会開催)7回 啓発活動(パンフ作成)600部 | ○ | ○ | 一部県産花きについてホームユース用生産の可能性が測れた。 対象産地の花き(トルコキキョウ、スイートピー)については、収量が向上した。 | ○ | 100% |
| 玖珠町 | 玖珠町 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 野菜(白ねぎ) | 新規栽培者の確保5名 | 推進協議会の開催4回 技術講習会の開催2回 先進地調査1回 | 新規栽培者5名を確保 | 推進協議会の開催4回 技術講習会の開催4回 先進地調査1回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 九重町 | 九重町 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 野菜(白ねぎ、トマト) | 面積拡大1ha | 推進協議会の開催2回 実証圃の設置2ヶ所 技術講習会の開催3回 | 白ねぎの面積拡大1ha | 推進協議会の開催2回 実証圃の設置2ヶ所 技術講習会の開催3回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 中津市 | 中津市 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 品質向上 | 野菜(こねぎ、白ねぎ) | 作付面積の拡大10% 消費者との交流会1回 | 協議会の開催1回 専門委員会の開催3回 研修会の開催5回 優良事例調査1回 啓発活動 1回 | 作付面積の拡大10% 消費者との交流会1回 | 協議会の開催1回 専門委員会の開催3回 研修会の開催5回 優良事例調査1回 啓発活動 1回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 宇佐市 | 宇佐市 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 品質向上 | 野菜(玉ねぎ) | 新栽培技術の導入20戸 | 推進協議会の開催3回 栽培マニュアルの作成100部 先進地研修 | 新栽培技術の導入20戸 | 推進協議会の開催3回 技術講習会の開催3回 栽培マニュアルの作成100部 先進地研修 | ○ | ○ | | ○ | 100% |

(都道府県名：大分県)

| 市町村名 (または地区名) | 事業実施主体名 | 政策目的 | 政策目標 | 取組名 | 計画策定時 | | 事業実施後(目標年度) | | 事業実施主体による評価 | 都道府県による評価 | 都道府県による評価結果の判断根拠、要因分析(必要に応じて記入) | 農政局による評価 | 成果目標の達成率 |
|------------------|-----------------|----------|--------------|--------------|--|--|--|--|-------------|-----------|---------------------------------|----------|----------|
| | | | | | 成果目標 | 事業内容(計画) | 成果目標に対する成果実績 | 事業実績 | | | | | |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 家畜改良増殖(肉用鶏) | 豊のしゃも出荷羽数 40,000羽 | 豊のしゃもの系統造成を行い出荷羽数を増やす。 | 豊のしゃもヒナ出荷羽数 43,989羽 | 豊のしゃもの系統造成を行い出荷羽数を増やした。 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 豊のしゃも推進協議会 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 家畜改良増殖(肉用鶏) | 出荷羽数 40,000羽 | 協議会の開催 飼養状況調査の実施 適正飼養管理現地指導の実施 能力向上研修 | 出荷羽数 43,989羽 | 協議会の開催 飼養状況調査の実施 適正飼養管理現地指導の実施 能力向上研修 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 九州生乳販売農業協同組合連合会 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 生乳乳製品流通(乳用牛) | 生乳計画生産目標数量の達成 | 推進会議の開催 指導調査の実施 現地指導の実施 | 九販連775,363t うち大分県分102,983t | 推進会議の開催 指導調査の実施 現地指導の実施 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県酪農業協同組合 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(乳用牛) | 乳成分分析 120,000件 | 乳成分分析調査の実施 | 乳成分分析 127,019件 | 乳成分分析調査の実施 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県酪農業協同組合 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(乳用牛) | 調整交配調査12回 保留育成調査12回 娘牛交配調査12回 娘牛分娩調査12回 | 調整交配調査の実施 保留育成調査の実施 娘牛交配調査の実施 娘牛分娩調査の実施 | 調整交配調査18回 保留育成調査18回 娘牛交配調査18回 娘牛分娩調査18回 | 調整交配調査の実施 保留育成調査の実施 娘牛交配調査の実施 娘牛分娩調査の実施 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 佐伯市 | 佐伯市 | 産地競争力の強化 | 品質の向上 | 畑作物・地域特産物(茶) | 生産技術の普及・浸透、有機栽培への取り組み、土壌の物理的改善 | 協議会の開催 20人、3回 生産技術講習会の開催 30人、4回 土壌分析の実施 40点、1回 | 生産技術の普及・浸透、有機栽培への取り組み、土壌の物理的改善に取り組んだ結果、品質の向上が図られた。 生葉Aランク (H17.46→) | 協議会の開催 20人、3回 生産技術講習会の開催 30人、4回 土壌分析の実施 40点、1回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 野菜 | 実証圃成績書作成3ヶ所 展示圃成績書作成3ヶ所 いちご高品質品種への更新30% | 指定産地育成協議3回 指定産地濃密指導20産地生産出荷安定化指導11地区 専門別講習会3回 価格公表協議会12回 必要入荷量見直し検討会3回 中央協議会1回 消費者ニーズ調査2回 産地活性化指導5回 実証圃設置3ヶ所 展示圃設置3ヶ所 | 実証圃成績書作成3ヶ所 展示圃成績書作成3ヶ所 いちご高品質品種への更新30% | 指定産地育成協議3回 指定産地濃密指導20産地生産出荷安定化指導11地区 専門別講習会3回 価格公表協議会12回 必要入荷量見直し検討会3回 中央協議会1回 消費者ニーズ調査2回 産地活性化指導5回 実証圃設置3ヶ所 展示圃設置3ヶ所 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性の向上 | 畑作物・地域特産物(茶) | 担い手への農地集積により8haの茶園造成 | 加工技術研修会の実施 4回 技術者養成研修の実施 3回 実証圃の設置 2ヶ所 栽培マニュアルの作成 1式 産地育成推進パンフの作成 400部 品評会の開催 1回 生産動向調査・検討会開催 10回 事業効果の検証 12回 | 担い手への農地集積により8.6haの茶園造成ができた。 | 加工技術研修会の実施 4回 技術者養成研修の実施 3回 実証圃の設置 2ヶ所 栽培マニュアルの作成 1式 産地育成推進パンフの作成 400部 品評会の開催 1回 生産動向調査・検討会開催 10回 事業効果の検証 12回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |

(都道府県名：大分県)

| 市町村名 (または地区名) | 事業実施主体名 | 政策目的 | 政策目標 | 取組名 | 計画策定時 | | 事業実施後(目標年度) | | 事業実施主体による評価 | 都道府県による評価 | 都道府県による評価結果の判断根拠、要因分析(必要に応じて記入) | 農政局による評価 | 成果目標の達成率 |
|------------------|---------|----------|---------------------|----------------|---|--|--|--|-------------|-----------|--|----------|----------|
| | | | | | 成果目標 | 事業内容(計画) | 成果目標に対する成果実績 | 事業実績 | | | | | |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性の向上 | 畑作物・地域特産物(たばこ) | 13,000千円の粗生産額生産者110戸育成 | 協議会の開催 アンケート調査の実施 5人、2回 | 13,000千円の粗生産額生産者は81戸にとどまった。 | 協議会の開催 アンケート調査の実施 5人、2回 | × | × | たばこについては、収穫前の長雨等により、品質が著しく低下し、指標である1kg当たり販売代金が1,801円と過去10年間で最低となった。このことにより、販売額が伸びず結果として、目標を達成できなかった。 18年度については、引き続き個別規模の拡大を図る一方で、品質の向上に努め、目標の達成を図る。 | × | 0% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 鳥獣害防止 | 協議会の開催2回 | 集落リーダー養成研修の開催2回 協議会の開催2回 | 協議会の開催2回 | 集落リーダー養成研修の開催2回 協議会の開催2回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 地産地消 | 地域直販所の農林水産物(野菜・果物・花等)取扱額の増加1割 食彩愛用店広報誌発行10,000部 固有食材継承活動 | 県推進協議会の開催(幹事会・推進会議各1回 60名) サポーター組織交流活動(2回 80名) 直販ネットワークづくり(参加205事業所) 愛用店の募集・広報(登録153店 広報誌 公共用1,000部 一般販売9,000部) その他農産物情報誌発行(4回各6,000部) 固有食材の継承活動(4品目) | 地域直販所の農林水産物(野菜・果物・花等)取扱額の増加1割 食彩愛用店広報誌発行10,000部 固有食材継承活動 | 県推進協議会の開催(幹事会・推進会議各1回 60名) サポーター組織交流活動(2回 80名) 直販ネットワークづくり(参加205事業所) 愛用店の募集・広報(登録153店 広報誌 公共用1,000部 一般販売9,000部) その他農産物情報誌発行(4回各6,000部) 固有食材の継承活動(4品目) | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 品質向上 | 果樹 | 果樹農業振興計画の策定 | 協議会の開催 産地生産状況調査の実施 果樹硬化技術経営研修の実施 資料、パンフレットの作成 地域別指導推進 | 果樹農業振興計画の策定(H18.3) | 協議会の開催 産地生産状況調査の実施 果樹硬化技術経営研修の実施 資料、パンフレットの作成 地域別指導推進 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 農畜産業の環境保全 | 環境保全 | 環境保全型農業指針300部作成・配布 環境負荷低減実証圃の設置2ヶ所 技術検討会の開催 | 協議会の開催 環境負荷低減実証圃の設置 環境保全型農業指針作成・配布 技術検討会の開催 | 環境保全型農業指針300部作成・配布 環境負荷低減実証圃の設置2ヶ所 技術検討会の開催 | 協議会の開催 環境負荷低減実証圃の設置 環境保全型農業指針作成・配布 技術検討会の開催 エコファーマー認定者数1,742名 ソルゴーと白菜との輪作5ha | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 農作業の機械化・安全対策 | 農業生産体制保安 | 農作業保安指導員の育成 農業機械士の養成 | 農作業保安指導員の育成 農業機械士の養成 | 農作業保安指導員の育成 農業機械士の養成 | 農作業保安指導員44名 農業機械士44名 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県 | 産地競争力の強化 | 輸入急増農産物における国産シェアの奪回 | 野菜 | 実証圃成績書作成2ヶ所 展示圃成績書作成3ヶ所 実証圃検討会3回 優良産地事例調査4回 夏ねぎ作付け拡大6ha | 実証圃設置2ヶ所 展示圃設置3ヶ所 実証圃検討会3回 優良産地事例調査4回 | 実証圃成績書作成2ヶ所 展示圃成績書作成3ヶ所 実証圃検討会3回 優良産地事例調査4回 | 実証圃設置2ヶ所 展示圃設置3ヶ所 実証圃検討会3回 優良産地事例調査4回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 豊後高田市 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 畑作物・地域特産物(そば) | 単収の向上 現状から5%以上 | そば産地活性化推進協議会の開催 実証圃の設置 生産状況巡回調査 生産技術講習会の開催 そばの啓発活動 | 単収の向上 現状から5%以上 | そば産地活性化推進協議会の開催 実証圃の設置 生産状況巡回調査 生産技術講習会の開催 そばの啓発活動 播種後の台風及び豪雨の影響により収量が減少し、計画を達成できなかった。(達成率56%) | ○ | ○ | | ○ | 100% |

(都道府県名：大分県)

| 市町村名 (または地区名) | 事業実施主体名 | 政策目的 | 政策目標 | 取組名 | 計画策定時 | | 事業実施後(目標年度) | | 事業実施主体による評価 | 都道府県による評価 | 都道府県による評価結果の判断根拠、要因分析(必要に応じて記入) | 農政局による評価 | 成果目標の達成率 |
|------------------|------------|----------|--------|------------------|---|---|--|---|-------------|-----------|---------------------------------|----------|----------|
| | | | | | 成果目標 | 事業内容(計画) | 成果目標に対する成果実績 | 事業実績 | | | | | |
| 大分県 | 豊後高田市 | 産地競争力の強化 | 品質向上 | 土地利用型作物(麦・大豆) | 栽培マニュアルの作成 | 麦・大豆産地活性化推進協議会 技術向上研修会 生産技術講習会 | 栽培マニュアルの作成 | 麦・大豆産地活性化推進協議会 技術向上研修会 生産技術講習会 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | JAぶんご大野 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 土地利用型作物(水稲・麦・大豆) | 10aあたり費用合計が稲において10%以上減 麦において2.5%以上減 大豆において5%以上減 | 産地協議会の開催 先進地研修 技術講習会 土壌分析、品質分析 実証圃の設置(大豆) | 10aあたり費用合計が稲において10%以上減 麦において2.5%以上減 大豆において5%以上減 | 産地協議会の開催 先進地研修 技術講習会 土壌分析、品質分析 実証圃の設置(大豆) 費用合計の減少割合目標達成率 稲101% 麦124% 大豆122% | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 宇佐市 | 産地競争力の強化 | 品質向上 | 土地利用型作物 | 栽培マニュアルの作成 | 麦・大豆産地協議会の開催 先進地視察 栽培研修会 栽培マニュアル作成 | 栽培マニュアルの作成 | 麦・大豆産地協議会の開催 先進地視察 栽培研修会 栽培マニュアル作成 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分宇佐農業協同組合 | 産地競争力の強化 | 品質向上 | 土地利用型作物 | 新品種の計画的な導入 | 新品種実証圃の設置 先進事例の調査 成分分析検査 | 新品種の計画的な導入 | 新品種実証圃の設置 先進事例の調査 成分分析検査 四国裸100号 12.57ha ミナミカオリ 40ha | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 大分県 | 大分県農協中央会 | 産地競争力の強化 | 品質向上 | 土地利用型作物 | 県共励会の開催 | 全国麦作共励会 全国豆類経営改善共励会推進指導等 | 県共励会の開催 | 全国麦作共励会 全国豆類経営改善共励会推進指導等 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性の向上 | 家畜改良増殖 | ランドレース種(L)による豚系統造成(平均血縁係数20%以上、個体間の血縁係数10%以上) | ランドレース種(L)の閉鎖群育種による豚系統造成試験の実施 | 第4世代の総合育種価雄は選抜豚平均33.9 標準化された選抜差(i)は1.43 集団の血縁・近郊係数は16.84%、6.10% | ランドレース種(L)の閉鎖群育種による豚系統造成試験の実施 | | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性の向上 | 家畜改良増殖 | 49日齢体重 ♂1,200g ♀1,050g 産卵率68% 卵殻強度 3.5kg/cm ² | 九州ロードの系統造成試験の実施 | 第10世代の成績 ♂1,421g ♀1,136g 産卵率76.3% 卵殻強度 3.77kg/cm ² | 九州ロードの系統造成試験の実施 | | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性の向上 | 家畜改良増殖 | 175日齢体重 ♂3,500g ♀2,400g 産卵率50% | シャモ(大分系)の系統造成試験の実施 | 平成17年度種鶏成績 ♂3,921g ♀2,574g 産卵率54.3% | シャモ(大分系)の系統造成試験の実施 | | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性の向上 | 家畜改良増殖 | 産卵率45% 卵重38g 卵殻強度 3.5kg/cm ² | 烏骨鶏の系統造成試験の実施 | 第3世代の成績 産卵率48.2% 卵重39.3g 卵殻強度 3.77kg/cm ² | 烏骨鶏の系統造成試験の実施 | | ○ | | ○ | 100% |

(都道府県名：大分県)

| 市町村名 (または地区名) | 事業実施主体名 | 政策目的 | 政策目標 | 取組名 | 計画策定時 | | 事業実施後(目標年度) | | 事業実施主体による評価 | 都道府県による評価 | 都道府県による評価結果の判断根拠、要因分析(必要に応じて記入) | 農政局による評価 | 成果目標の達成率 |
|------------------|------------|----------|--------|-------------|--------------|-----------------------|---------------|-----------------------|-------------|-----------|---|----------|----------|
| | | | | | 成果目標 | 事業内容(計画) | 成果目標に対する成果実績 | 事業実績 | | | | | |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性の向上 | 飼料増産 | 試験圃設置1ha | 飼料イネ普及展示試験圃設置 | 試験圃設置1ha | 飼料イネ普及展示試験圃設置 | | ○ | | ○ | 100% |
| 山香町 | 山香町 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛70頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 70頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 豊後大野市 | 豊後大野市 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛95頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 60頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | △ | △ | 子牛市場価格が高沸する一方で、高齢化により地域内で経営中止する畜産農家が現れ、手放された繁殖雌牛の地域内保留に努めた結果、目標達成に至らなかった。 | △ | 50% |
| 竹田市 | 竹田市 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛185頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 180頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 九重町 | 九重町 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛30頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 20頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | △ | △ | 子牛市場価格が高沸する一方で、高齢化により地域内で経営中止する畜産農家が現れ、手放された繁殖雌牛の地域内保留に努めた結果、目標達成に至らなかった。 | △ | 50% |
| 玖珠町 | 玖珠町 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛80頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 80頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 日田市 | 大分ひた農業協同組合 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛28頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 28頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 中津市 | 中津下毛農業協同組合 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛20頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 20頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 中津市 | 下郷農業協同組合 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛10頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 10頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| 宇佐市 | 宇佐市 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 肉用繁殖雌牛8頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | 肉用繁殖雌牛 2頭導入 | 実証、試験の実施 ・家畜導入基金造成 | × | × | 子牛市場価格が高沸する一方で、高齢化により地域内で経営中止する畜産農家が現れ、手放された繁殖雌牛の地域内保留に努めた結果、目標達成に至らなかった。 | △ | 50% |

(都道府県名：大分県)

| 市町村名 (または地区名) | 事業実施主体名 | 政策目的 | 政策目標 | 取組名 | 計画策定時 | | 事業実施後(目標年度) | | 事業実施主体による評価 | 都道府県による評価 | 都道府県による評価結果の判断根拠、要因分析(必要に応じて記入) | 農政局による評価 | 成果目標の達成率 |
|------------------|---------|----------|--------------|---------------------|--|--|-----------------------|--|-------------|-----------|---------------------------------|----------|----------|
| | | | | | 成果目標 | 事業内容(計画) | 成果目標に対する成果実績 | 事業実績 | | | | | |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 家畜改良増殖(みつばち) | 県内転飼計画の調整(出先12回、本庁1回) | みつばち転飼調整会議の開催13回 | 県内転飼計画の調整(出先12回、本庁1回) | みつばち転飼調整会議13回 花粉交配実態調査12地区 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 生乳乳製品流通(乳用牛) | 生乳計画生産目標数量の達成99,578t | 生乳需給調整会議の開催 | 102,983t | 延べ5人、4回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 食肉等流通体制整備(採卵鶏) | 県鶏卵需給調整協議会年1回 地区鶏卵需給調整協議会5ヶ所×年1回 | 県鶏卵需給調整協議会の開催 地区鶏卵需給調整協議会の開催 | 年1回 5ヶ所×年1回 | 年1回 5ヶ所×年1回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 畜産生産基盤育成強化(肉用牛、乳用牛) | 新規就農希望者の確保7名 | 新規就農希望者に対する実践技術研修 研修受入希望調査 研修センター運営会議 研修計画策定協議 | 7名 | 11ヶ月間実践研修 5回 1回 1回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 需要に応じた生産量の確保 | 食肉等流通体制整備(肉用鶏) | 県ブロイラー需給調整会議年1回 | 県ブロイラー出荷調整会議 ブロイラー生産出荷動向調査 | 年1回 | 1回 2回、70カ所 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 畜産生産基盤育成強化(肉用牛、乳用牛) | 県酪農・肉用牛生産近代化計画策定 市町村酪農・肉用牛生産近代化計画策定指導(16市町) | 酪肉近代化計画ブロック会議 県酪肉近代化委員会 総括委員会 小委員会 市町村酪肉生産近代化計画作成指導 全体会議 市町村計画作成指導会議 酪肉経営改善調査 飼料生産利用調査 | 県、16市町 | 1回 1回 2委員会、2回 12地区、1回 12地区、3回 5市町村、3回 5市町村、3回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 畜産生産基盤育成強化(肉用牛、乳用牛) | 個別指導農家数135件 グループ指導農家数330件 | 畜産担い手の育成対策に係る支援指導 データベース活用による効率的支援指導 支援指導研究会の開催 指導相談窓口の設置 | 145件 285件 | 畜産担い手の育成対策に係る支援指導 データベース活用による効率的支援指導 支援指導研究会の開催 指導相談窓口の設置 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 飼料増産(飼料作物) | 奨励品種の改廃 自給飼料分析500点 | 奨励品種選定会議 奨励品種試験圃設置 展示圃設置 飼料適正給与指導 分析機器整備 | 500点 | 30人、2回 1.2ha 12カ所、0.2ha 500点 粗繊維分析機1台 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 飼料増産(飼料作物) | 飼料増産計画の策定 自給飼料パンフ1000部作成配布 | 飼料増産検討委員会の開催 地区飼料増産推進検討会の開催 自給飼料推進パンフレット作成 | 策定 1000部 | 15人、2回 12地区、2回 パンフ1000部作成配布 | ○ | ○ | | ○ | 100% |

(都道府県名：大分県)

| 市町村名 (または地区名) | 事業実施主体名 | 政策目的 | 政策目標 | 取組名 | 計画策定時 | | 事業実施後(目標年度) | | 事業実施主体による評価 | 都道府県による評価 | 都道府県による評価結果の判断根拠、要因分析(必要に応じて記入) | 農政局による評価 | 成果目標の達成率 |
|------------------|---------|----------|-------|-------------------|---|---------------------------------------|---------------------------|----------------------------|-------------|-----------|---|----------|----------|
| | | | | | 成果目標 | 事業内容(計画) | 成果目標に対する成果実績 | 事業実績 | | | | | |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 飼料増産(飼料作物) | 放牧推進会議の開催 3回 放牧事例調査 14地区 | 放牧推進会議の開催 放牧技術研修会の開催 放牧事例調査 | 3回 14地区 | 10人、3回 1回 14地区、延べ58人 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(乳用牛) | 検定データ分析 1080件 牛群検定研修会 2回 牛群検定の加入推進 2回 | 検定データ分析 牛群検定研修会 牛群検定普及推進 | 1,080回 2回 2回 | 1,080回 2回 2回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 家畜改良増殖(肉用牛) | 優秀種雄牛造成 20頭 高能力雌牛群の整備(県全体) | 高能力種雄牛選抜 雌牛能力調査指導 | 20頭 | 20頭 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| | | | | | 家畜導入現地指導(12地区、4回、56主体、2回) 地域事業推進会議の開催等(12地区、2回) | 家畜導入現地指導 地域事業推進会議の開催等 | 12地区、4回、56主体、2回 12地区2回 | 12地区、4回、56主体、2回 12地区2回 | ○ | ○ | | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 畜産新技術実用化(肉用牛) | 性別別や遺伝的改良に向けた新技術の確立と受胎率の向上 | 共同試験 技術者養成 雌雄産み分け DNA育種基盤の確立 | 23.1% | 120頭 1回 40頭 1式 | ○ | ○ | 性別別の受胎率は前年に対し、5.5ポイント減の23.1%であった。しかし、移植頭数は前年を上回る結果となった。 | ○ | 100% |
| — | 大分県 | 産地競争力の強化 | 生産性向上 | 畜産新技術実用化(肉用牛、乳用牛) | 都道府県個体識別システム推進会議の開催(1回、200人) 飼料抽出検査の実施(12地区、3回、96検体) | 都道府県個体識別システム推進会議の開催 飼料抽出検査の実施 | 1回、200人 12地区、3回、96検体 | 1回、200人 12地区、3回、96検体 | ○ | ○ | | ○ | 100% |

※様式は「強い農業づくり交付金の事業評価の実施について」(平成17年10月3日付け17生産第3510号農林水産省大臣官房国際部長、農林水産省総合食料局長、農林水産省生産局長、農林水産省経営局長通知)別記様式1-1(1)に準じる。

(注)1. 取組名欄の()内には、対象作物・畜種等名を記入する。

- 「評価」の欄は、成果目標の達成状況について、達成又は概ね(8割以上)達成されたと判断される場合は○、概ね半分(4割)以上達成されたと判断される場合は△、これ以下の場合は×を記入する。
- 複数の項目を成果目標として掲げている場合、成果目標の達成率は、それぞれの項目の達成率の平均とする。
- 地方農政局等において記入する成果目標の達成率については、○においては100%、△においては50%、×においては0%の達成率とする。